

構造への敬虔 新谷真人

朝倉幸子◎TH-1

illustration: Taco◎Switch・エンタテインメント

■オーク構造設計

「ハイ、はい」「そうですネ〜」。遠目で凛とした先生を拝見しているから、心してお目に掛かった。が、時には笑みを浮かべて話をよく聞いてから端的にお答えくださる、中身もジェントルマンな方なのでした。構造家・新谷真人先生は、約10年勤めて梓設計を3人で辞し独立。そのパートナーの頭文字で、オーク(O・A・K)としたとか。「檜の木」ですかと聞かれたら、イエスと答えることにしていると、本筋以外の解釈は相手にお任せ…なのです。

創業時は、意匠設計の下請けもして、ツライ時期も経験された。ある日古巣の師匠である、木村俊彦先生にご挨拶に行ったら、「あ、そう」とツレナかった。ところが、2年くらい経ってから「四国の仕事をしないか」とご連絡が。2物件終わると「また四国で……今度は伊東さん」と。日本のトップを担う、建築家とともに造る構造設計事務所の立ち位置を、伊東豊雄先生との仕事が、磐石にしたといえそうです。

真壁伝承館(2012年日本建築学会作品賞受賞)

では、意匠設計者である渡辺真理先生

や木下庸子先生と密に構造を検討された。鉄板構造に決めるまでの経緯のお話には思わず引き込まれる。工藤和美先生・堀場弘先生と、山鹿小学校(2014年JIA建築大賞受賞)のトークイベントでも、興味深い数々が聞けました。

■計測

施工の質には、何が一番大事だと思いますか? と、逆に質問されて、グググ……。先生曰く、「形状と寸法管理です。溶接も配筋も、すべて、形状と寸法の計測が基

本なのです」。後戻りのない工事も、無駄のない材料管理も、形状と寸法のチェックがあればこそ、と。霸志堂も大きく頷く。現場でお付き合いのある、オーク出身の構造家・中畠敦広さんや、森部康司さん(昭和女子大学准教授)も、計測にはシビアな監理であると、監督から聞いていた。師の教授は実践されている。施工者のバイブルにもなる教訓をいただいた。

木村事務所時代の先輩、構造家・渡辺邦夫先生は、「どこが成功して、どこが失敗したか、その経験を知恵としていくのが構造家」といわれるそうだ。新しいものをやろうとするよりは、前よりよくしようと思うのが構造家であると、新谷先生も思う。構造は、建築家の意向で形が変わっていく。と同時に、建築自体が社会の変化によって変わっていくものでもある。その社会的要請と、技術的進歩と、構造家の前向きな姿勢が構造を造っていくのだと。

■アンコールワット

事務所に、アンコールワットの写真。仏様のお顔が、先生の上品な輪郭によく似ているではないか。この10年、「アンコール遺跡等のアジアの保存修復技術の研究」で科学技術分野の文部科学大臣表彰(平成24年度)を受けられた早稲田大学の中川武教授のプロジェクトに参加し、現地に行き続けている。テラライトや砂岩でできている組積造は、現代建築にはない建造物群。自然界の微量な鉄とアルミが混ざり、雨で酸化されてできるテラライト。水によって表面を荒らし、ポーラスになって、最後はボロボロになる。

その歴史的遺産の風化を、いかに抑え修復するかを考えて研究して、提案するのが目的という。「おカネがね、ないのですよ、科研費を申請して、各分野の研究者が一緒に動いているのです」。

ハードな旅の証は、日に焼けて皮が剥けた筋肉質な先生の腕!! 仕事以外は何も……と言いつつ、毎日1kmの水泳は欠かさないと!

構造の美学は、健康と体型維持から来るもの。シャープなのは頭脳だけではないと、つくづく感じ入ったのでした。

